

科目名		工業英語 I (English for Engineering I)								
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数			
第5学年	物質工学科	学修	1 単位	必修	講義	前期	45 時間			
担 当 教 員		【常勤】 准教授 島袋 勝弥								
学 習 到 達 目 標										
科目の到達目標レベル		科学技術の国際的な交流が活発化する現在、エンジニアとして科学技術に関する英文の読解能力が強く求められる。講義では、科学技術に関わる英語を集中的に学ぶ。また、日本人が誤りやすい表現と用語の発音についても授業で取り上げ、コミュニケーション能力の育成も行う。 ①辞書を使用しなくても内容を把握できる。 ②英文の構成を理解できる。 ③重要な英文法を理解できる。								
到達目標 (評価項目)		優れた到達レベルの 目安		良好な到達レベルの 目安		最低限の到達レベルの 目安		未到達レベルの 目安		
到達目標 ①		科学英単語を含む英単語 が書くことができる		科学英単語を含む英単語 が3/4書くことができる		科学英単語を含む英単語 が3/5書くことができる		科学英単語を含む英単語 が書けない		
到達目標 ②		英文の構成が理解できる		英文の構成が3/4理解できる		英文の構成が3/5理解できる		英文の構成が理解できない		
到達目標 ③		英文法が理解できる		英文法が3/4理解できる		英文法が3/5理解できる		英文法が理解できない		
学習・教育到達目標		(G)②		JABEE基準1(2)		(f)				
達 成 度 評 価 (%)										
評価方法 指標と評価割合		中間 試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	40		20					100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】		◎	◎		○					
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】		○	○		○					
汎用的技能 【 】										
態度・志向性(人間力) 【 】										
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】										

関 連 科 目 、 教 科 書 お よ び 補 助 教 材	
関連科目	化学全般
教科書	Judy先生の耳から学ぶ科学英語(野口ジュディー著、講談社サイエンティフィック)
補助教材等	科学英語101(國安均著、化学同人)、やさしい化学英語(中村喜一郎、青柳忠克共著、オーム社)
学 習 上 の 留 意 点	
予習および復習をすること。英語になれるために授業の一部を英語で行う。 復習の確認として、定期的にレポートを課す。 辞書なしで大意を把握できるような読解力を身につけるように、積極的に科学・工学に関わる単語を多く覚えること。	
担 当 教 員 か ら の メ ッ セ ー ジ	
社会が着実にグローバル化する中で、英語の重要性は増えています。勘違いしていけないのは、ビジネスの場で必要となるのは、平易な日常会話というよりも、専門用語の知識です。この授業では化学・工学に関わる基本的な単語や表現方法を学びます。世界に飛び出す気合のある人は、この機会を足がかりに英語の世界に飛び込んでください。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス 整数の表現	整数の表現を理解することができる。	第1回目の内容について復習を行う。
2	寸法の表現	寸法の表現を理解することができる。	第1回目復習のための小テストを行う。 第2回目の内容の復習および第3回目の予習を行う。
3	分数、少数の表現	分数、小数の表現を理解することができる。	第3回目の内容の復習および第4回目の予習を行う。
4	数式の表現	数式の表現を理解することができる。	第4回目の内容の復習および第5回目の予習を行う。
5	日常激な数の表現	日常的な数の表現を理解することができる。	第5回目の内容の復習および章末問題の予習を行う。
6	数詞の表現1	数詞の表現を理解することができる(1)。	第6回目の内容の復習および章末問題の予習を行う。
7	数詞の表現2	数詞の表現を理解することができる(2)。	第7回目の内容の復習および章末問題の予習を行う。
8	中間試験		
9	序数の表現	序数の表現を理解することができる。	第9回目の内容の復習および第10回目の予習を行う。
10	数の接頭語の表現	数の接頭語の表現を理解することができる。	第10回目の内容の復習および第11回目の予習を行う。
11	単位の接頭語接頭語	単位の接頭語の表現を理解することができる。	第11回目の内容の復習および第12回目の予習を行う。
12	複雑な数式	複雑な数式の表現を理解することができる。	第12回目の内容の復習および第13回目の予習を行う。
13	実験器具の表現1	実験器具の表現を理解することができる(1)。	第12回目復習のための小テストを行う。 第13回目の内容の復習および章末問題の予習を行う。
14	実験器具の表現2	実験器具の表現を理解することができる(2)。	第13回目復習のための小テストを行う。これまで習った範囲をレポートとしてまとめる。
	学年末試験		
15	まとめ	試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 また授業評価アンケートを行う。	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			30 時間
自学自習			15 時間